和歌山県立
日高高等学校
SGH通信
第8号
2020年7月22日

課題研究成果発表会（４）
～参観から学んだこと～

先輩方の調査量、行動量のすごさ　２年４組

先輩方が、堂々とした態度で、アイコンタクトを取りながら発表している姿を見た。堂々とした態度でいられるのは、きちんと下調べをしているからで、だから質問にもすべて答えられているのだと思った。
いろいろな工夫、さらに体験までしに行っていることが分かり、私たちもこのような発表をしたいと思った。

データや調査結果に客観性があることが大切　２年５組

主観的な考えも必要かもしれないが、それだけだとただ自分の考えを述べるだけになるので、客観的なものの見方が大切だと思った。
同時に、客観性を持たせることにより、物事を伝えやすくなり、相手が理解しやすくもなるとも感じた。
全体を参観することで、何が必要なのかということが分かった。自分たちのよりよい発表につなげられると思う。

活動するうえで、計画通りに物事が進まないことも多いということ限られた時間の中で進めなければならないということ　２年６組

いろいろな分野の発表を聞かせてもらったが、当初考えた計画通りに活動できていないことも多いようだった。特に、私たちが今後取り組むのは科学系なので、そういうことも多々あると予想される。また、それらも関係しているのか、はじめに設定した課題と最終的に出した答えに若干のズレを感じることもあった。追求することが途中で変更するのはいいと聞いているが、問いと答えが一致するように進めたいと思う。更に、実験や活動にはしっかりとした根拠をもって取り組むよう心がけたいと思った。

自分自身の半年後を思い浮かべることができた　２年２組

３年生の発表を参観して、大きな声で発表することがまず大事だと思いました。二つめはアイコンタクトです。お互いの目と目を合わせることが、発表で重要だと思いました。
三つ目には、半年後、自分自身が、後輩の方が理解しやすい表現で説明することが大事だと思いました。
とても勉強になりました。